

1. 総則

(1) 工事検査の目的

工事検査には、「地方自治法」第 234 条の 2 項 1 項に基づく地方自治法上の検査（給付の完了の確認）と、「静岡県建設工事執行規則」（以下「執行規則」という）に基づき、工事及び工事材料製造の厳正かつ的確な検査を執行するために必要な事項を定めた「静岡県建設工事検査要領」（以下「検査要領」という）による工事の適正かつ能率的な施工の確保及び工事に関する技術水準の向上に資することを目的とする技術検査がある。

- ① 請負工事の工事目的物が契約図書に定められた出来形や品質等を確保していて、発注者として、受け取り、その代価を支払ってよいことを確認する。

給付の完了の確認（給付の完了前に代価の一部を支払う場合において行う工事若しくは製造の既済部分又は物件の既納部分の確認を含む。）

- ② 検査時の指導を通じて、工事の適正かつ能率的な施工を確保するとともに、工事に関する技術水準の向上に資する。（技術検査）
- ③ 工事成績を評定することにより、受注者の適正な選定及び指導育成に資する。（技術検査）

(2) 検査技術基準

「静岡県建設工事執行規則」第 39 条における検査を行うにあたって必要な技術基準については、検査要領第 12 条の規定に基づき「静岡県建設工事検査技術基準」（以下「検査技術基準」という）において定められている。

検査の内容：

・ 工事実施の状況の検査

工事実施状況の検査は、工事の施工体制、施工状況（契約書等の履行状況、工程管理、安全管理、工事施工状況）に関する各種の記録（工事打合せ記録及び工事写真等を含む。）と契約図書とを対比し、別表第 1 に掲げる事項に留意して行うものとする。

・ 出来形の検査

出来形の検査は、位置、出来形寸法及び出来形管理に関する各種の記録と設計図書とを対比し、別表第 2 に基づき行うものとする。

・ 品質の検査

品質の検査は、品質及び品質管理に関する各種の記録と設計図書とを対比し、別表第 3 に基づき行うものとする。

・ 出来ばえの検査

出来ばえの検査は、仕上げの状況、とおり、すり付け及び全般的な外観について、目視又は観察により行うものとする。

(3) 工事成績評定

検査要領第 17 条の規定に基づき、「静岡県建設工事成績評定要領」が定められている。

成績評定（工事及び業務委託）に対する、公文書開示請求及び評定の内容に関する説明請求（再説明請求）もあるので注意する。

2. 工事検査の種類

(1) 検査の種類

公共工事は、現地単品生産であり、かつ自然環境の影響下で生産するという特徴を持っている。このため、施工の各段階において工事目的物の品質、出来形、機能等を確認し、次の段階に進むという段階的施工が必要である。

受注者は工事の施工管理を行い、設計書に適合した工事目的物を造ると同時に、そのことを証明できる施工管理資料を整備しなければならない。特に、検査時に検測や確認ができない不可視部分の出来形や品質は、施工の各段階での施工管理資料が不可欠であり、工事によっては検査を重要な施工の変化点や区切りとなる段階で行う必要がある。

発注者が行う検査には、このような公共工事の特徴に即した種々の検査がある。

検査は、工事の完成に伴って行う検査、工事施工の途中段階で行う検査、性能規定等契約に基づき工事完成後一定期間経過後に行う検査に大別できる。

さらに、工事施工中には契約の適正な履行の確保を図るために監督職員が行う検査（確認を含む）がある。

●給付の検査

①既済部分検査

契約工期内の定められた時点における契約で定められた出来高があるかどうかを確認して、出来高に応じた代価を支払うために行う施工途中段階での検査である。

検査の結果、契約で定められた出来高が確認されれば出来高に応じた代価が支払われる。出来高と認められた工事の完了部分は、発注者側へ引き渡されることはなく請負者において引き続き管理することになる。

②完済部分検査

工事の完成前に、契約図書においてあらかじめ指定された部分（指定部分）の工事目的物が完成した場合に行う検査である。

検査の結果が適合であれば、指定部分の引き渡しが行われ、代価が支払われる。

ただし、全ての工事が完成したわけではないので契約は継続されることになる。

従って、指定部分に限ってみれば完成検査と同じ検査ということになる。

③完成検査

工事の完成に伴い、請負者から発注者へ工事目的物の引き渡しを行う最終段階の検査である。

この検査では、完成した工事目的物が設計者に示された品質、出来形等に適合して完成しているかどうか、契約履行の完了の確認を行う。検査の結果が適合であれば工事目的物の引き渡しが行われ、代価の支払いがあつて契約は完了となる。

●技術検査

④中間技術検査

契約図書において、あらかじめこの検査を実施する旨を明記しておき、発注者が必要と判断したときに行う施工途中段階の検査である。

検査は、主たる工種が不可視となる工事の埋め戻し前など、施工上重要な変化点などや部

分使用する場合において設計図書との適合を確認しておき、できるだけ手戻りを少なくするなどの目的で行う。

検査結果が適合であっても代価の支払いや引き渡しはない。検査は発注者が必要と認めた時や既済部分検査（含完済部分検査）時に行う。特に発注者が必要と認めた時の検査日については工事工程等との調整もあることから受注者の意見を聞いて決めなければならない。また、完成検査の補完となるものであり、検査の対象となる部分を明確にした図面等を作成する必要がある。

⑤完成技術検査

完成検査時に行う技術検査は、工事の実施状況、出来形、品質及び出来ばえについて技術的な評価を行う検査である。

⑥完成後技術検査

総合評価方式やV E 提案方式など性能規定発注方式等による提案事項について、工事完成後一定期間経過後に、契約に基づく性能規定、機能が確保されているかどうかを確認する検査である。

性能規定等による契約では、完成検査時にその性能・機能等を確認することはできないため、工事完成後一定期間経過後の時点で契約に基づき性能規定の検査（履行の確認）を行うことになる。

ただし、工事目的物そのものは工事完成後に通常の完成検査（性能規定部分を除く）を行い、引き渡し、代価の支払いは行われる。検査結果が適合しない場合には、性能規定部分に関し契約違反としてペナルティが課せられる。

●監督員による検査（確認を含む）

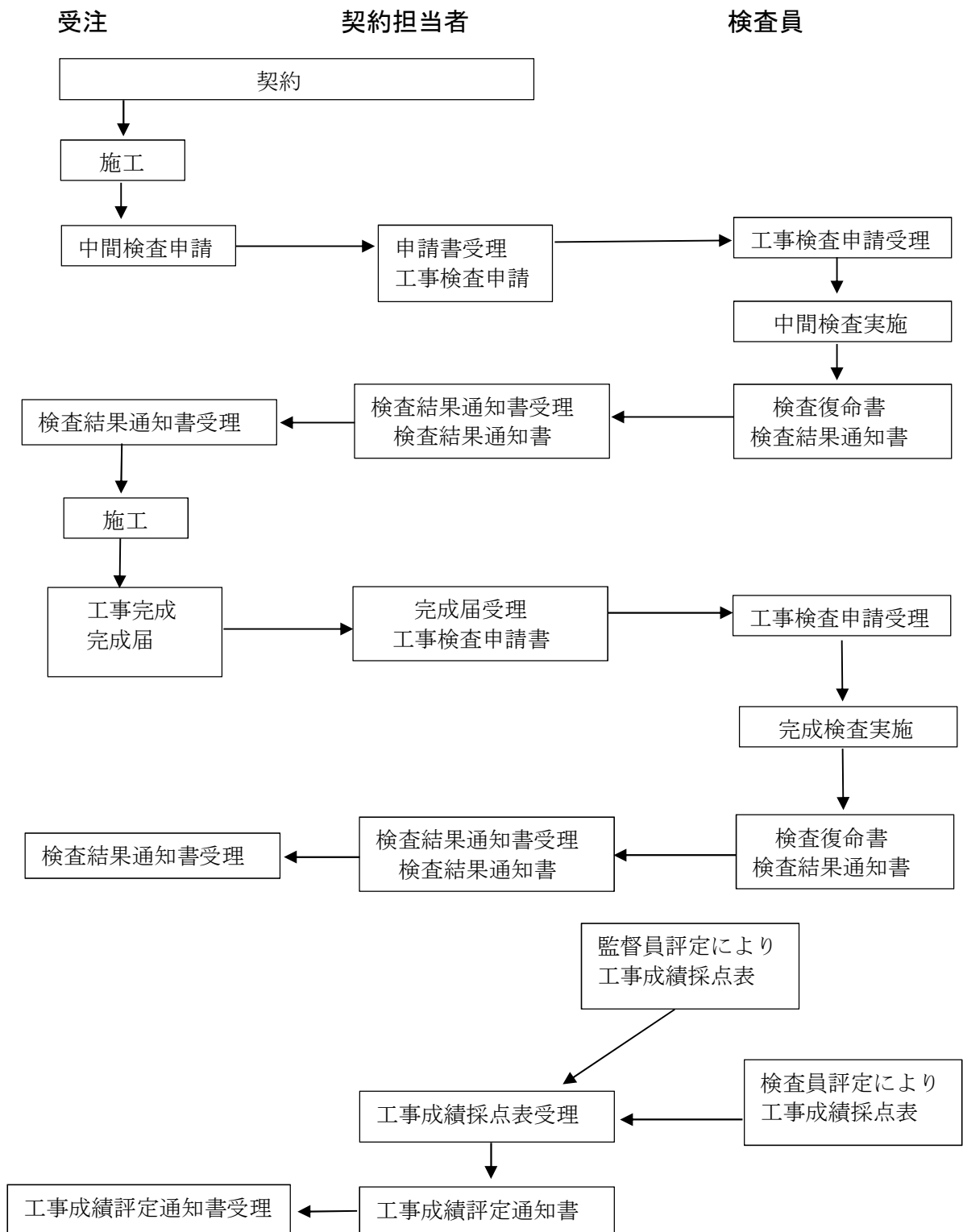
⑦部分使用検査

工事目的物の全部または一部の完成前において、発注者がこれを使用する必要性が生じた場合に行う検査である。

検査の結果、適合が確認されれば、発注者は請負者の承諾を得て部分使用することになる。この場合、使用部分は引き渡しを行わないので、代価の支払いはないが使用部分に関して双方で文書による確認をしておく必要がある。

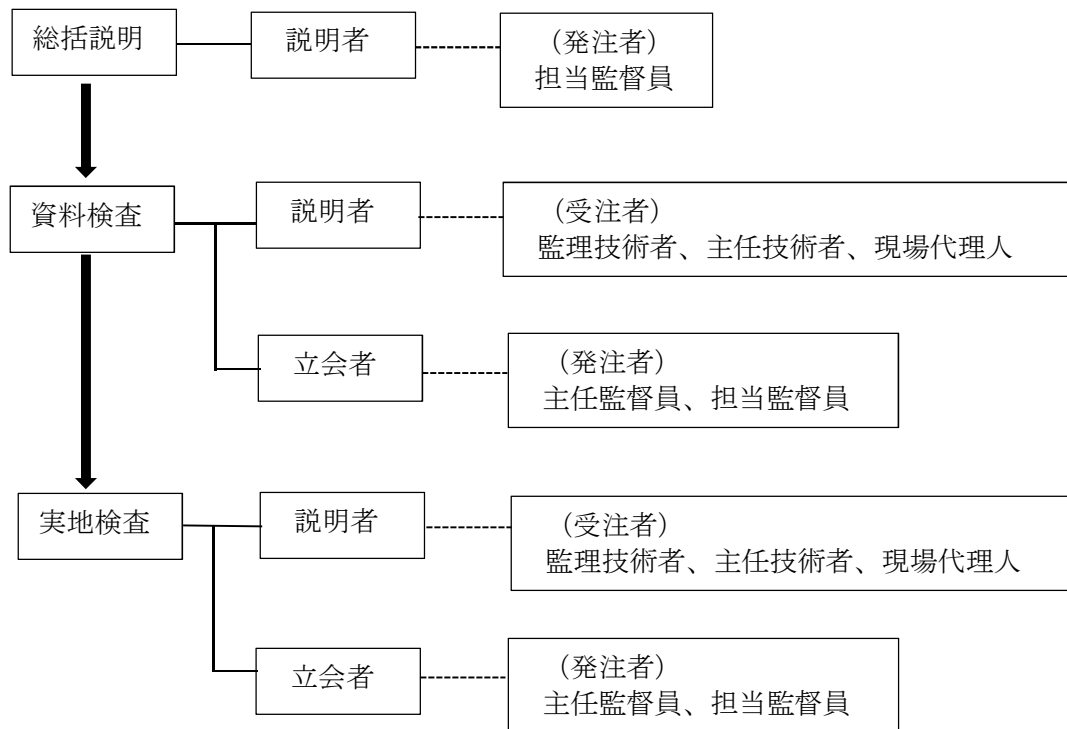
3. 工事検査フロー

以下は検査に合格の場合。不合格の場合は修補指示等の手続きが加わる。



4. 受検体制

本庁（工事検査課で行う）検査の実施にあたっての受検体制は、下記を標準とする。



*主任監督員は、必要がある時に立会する

5. 検査の役割と責任

(1) 検査の役割

①地方自治法に基づいて執行される県の請負工事においては、検査職員が工事目的物と契約図書との適合を確認して初めて代価の支払いが可能となる。即ち、検査職員以外の者によって契約図書との適合が確認されても給付の完了の確認にはならない。

工事の施工途中で監督職員による契約図書との適合の確認を一部実施することがあるが、これはあくまでも建築・設備工事の特性を考慮して行うこととしているものであり、検査の補完として位置付けられる。

工事目的物を受け取り、代価を支払ってよいかどうかは、検査によって確認されなければならない。これが検査の重要な役割の一つである。

②公共工事の品質確保・向上のためには、工事に関する技術水準の向上や能率的な施工の確保が重要であり、検査時の指導を通じてこれらに資すること、また工事成績評定による受注者の適正な選定に資することも検査の重要な役割である。

③建設業法及び適正化法（公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律）の趣旨に従い、適正な施工を評価し、建設業の健全な発達を促すことに資する。

(2) 検査の責任

地方自治法第 243 条の 2（職員の賠償責任）

- ・・・・これによって生じた損害を賠償しなければならない。次の各号に掲げる行為をする権限を有する職員又はその権限に属する事務を直接補助する職員で普通地方公共団体の規則で指定したものが故意又は重大な過失により法令の規定に違反して当該行為をしたこと又は怠ったことにより普通地方公共団体に損害を与えたときも、また同様とする。

一 支出負担行為

二 第 232 条の 4 第 1 項の命令又は同条第 2 項の確認

三 支出又は支払い

四 第 234 条の 2 第 1 項の監督又は検査・・・・監督員・検査員

- ・「故意又は重大な過失」に関して

検査の技術的基準として「静岡県建設工事検査技術基準」が定められており、検査はこの基準に基づき適正に実施されることが基本である。

6. 検査職員の心得

検査職員は、工事の目的物を最終的に受け取るか否かの判断をしなければならないため、厳正かつ客観性を重んじる態度で検査に臨む必要がある。

また、受注者とは契約上対等の立場であることから、検査の実施にあたっての受注者との対応には節度ある態度で臨み、厳正、公正を旨とし、高圧的・威圧的な態度に陥らないようにしなければならない。

- 1、実施及び資料に基づき事実を正しく判断して厳正に行う。
- 2、客観的かつ公正な態度と判断で行う。
- 3、受注者との信頼関係を保持し、誠意を持って行う。
- 4、受注者とは対等であるとの認識を持って接する。
- 5、工事の目的・内容を把握することに主眼点をおき、資料や現場をよく観察する。
- 6、質問、指摘、指示等は明確に行う。
- 7、検査職員としての誇りと信念を持って行う。

以上の心得を念頭において的確な検査を実施し、検査終了時には受注者に対しての合否の判定、検査結果についての講評を明確に行う。